



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

## 「6月21日は国際ヨガDAY ④」

そろそろ平安神宮国際ヨガDAYの総括をしよう。

実施2週間前の会合で京女Aが吠えた。

「現状のままだと赤字になる！」

日本最長老(97歳)のヨーガ指導者から多額の寄付を頂戴したものの、それでも赤字は間逃れない。経済的不安を抱えながら、とうとう18日がやって来た。17日はわが輩も遅くまで手伝い帰宅したのは午後11時を過ぎていた。早朝の4時30分に起床し、始発で三条京阪駅に向かった。

わが輩は京都市長が到着したら総領事とともに出迎えることになっていた。ところが総領事が予定時間に着かない。市長の方が先に来てしまった。手順がぐじゃぐじゃになってしまったのである。

(まあ、インド的でいいか)

午前9時から1000人ヨガが始まった。どのように整然として着座させるか、不安材料であった。ところが、日本人は実に優れた民族である。乱れることなく着座した。

もちろんボランティアの優れた誘導があったからである。ボランティアは130名、実行委員およびインストラクターを加えると総勢200名近くが奉仕活動をした。

最前列には所謂VIPが座る。われわれは前もって席次を決めていたが、前日になって領事館から別の席辞表が送られてきた。そこには大魔王の名前がなかった。

(なんてオイラは影の薄い男なのか?)

わが輩のために嘆くことなかれ、読者諸氏よ。

ヨーガ行者は、常にその存在を消さなければならない。

空いた席に腰を下せば済むことである。

総領事の左隣は御夫人の席であった。ところが体調がすぐれず欠席になった。最前列を空席にするにブジュアル的に歯抜けになってしまう。

「大魔王、代わりに座って！」

京女Aが命令した。素直に従うのがサーバントである。

映像に何やら偉そうに映っているが、存在を誇示したのではない。たまたまそこに座ることになっただけである。

午前の「1000人ヨガ」では、1300人が参加した。午後の「ヨガ・リブ」(みやこめっせ会場)では、4000人以上が入場した。

会場の半分は、ステージ・エリア(インド音楽舞踊など)、ブランド・スポンサーブース(ヨガ関連グッズなど)とマルシェ・エリア(飲食など50店舗)で占められた。

これだけの規模だけでも大イベントだと理解できるだろう。読者諸氏よ。

(人波とタンドーリ・チキンの煙でモウモウだよ)

もう半分は、各インストラクターのセッション部門であった。好みの先生についてヨガを学べる。どのクラスも満杯であった。

全25クラスの中で、わが輩が目にした二つのグループについて賞賛しておかなければならない。

一つはキッズ・ヨーガなるものである。主宰の伊藤華野さんは臨床心理士でもある。子どもを対象にヨーガを導入した姿勢づくりの指導を行っている。インドでは50年程前から体育教育に取り入れられているが、日本では未開拓な分野である。

どのように教育的なプログラミングしていくか、が伊藤さんの課題である。

もう一つはハンディキャップ・ヨーガである。このグループを京都で先導しているのは、若い谷口ふさこさんである。これはインドへ逆輸入の可能性を含んでいる。

身障者とヨーガをどのように結びつけ、ヨーガ的な平安をえるかが課題である。

ついでながら、「笑いヨーガ」なるものもあったが、あれはヨーガとは言えない。名称は別にして、笑うことは誰にとってもよいことである。インド発祥ながら、日本的に改良され、本場を凌ぐ勢いである。ますます吉本新喜劇的になれば面白い。

このような営利を目的としない奉仕イベントをするときは、実行委員が赤字をかぶる覚悟ですべきである、と前委員長は言った。

(全くそのとおりだよ)

しかしながら、われらは適度に貧乏な勤め人や主婦である。負担が重過ぎる。

幸運にも当日券が売れて赤字は間逃れた。それでも最年長ヨーギーの御寄附がなければ、赤字に近いものとなったであろう。

(よかった。よかった)

ヨーガには「方便(手段)」という意味もある。その手段を用いて「よかった」感を得るのが醍醐味というものだと思わないかい。読者諸氏よ。